

すみだ食育 good ネットとは
「10年プロジェクト」から見えてきたこと
「すみだの食育」で育まれた取組 など

食はぐで！ 育はぐむ vol.1

手間かけて つながり育む
子どもたちの芽



P1
すみだ食育goodネットとは
「10年プロジェクト」から
見えてきたこと

P2
「すみだの食育」で
育まれた取組

P7
「すみだの食育」子ども・若者・
地域のつながりと育み
当事者の想い

P9
次世代の担い手を育む
環境づくり

P11
山崎製パン株式会社 インタビュー
「共通するのはビジョンを
もってブレない取組」

P13
墨田区長インタビュー
食育で!
「子どもたちの夢」を育む

P15
人と地域をつなぎ
子どもたちを育む「かかし」
「すみだのかかし物語」

P16
すみだ食育goodネット
理事長の想い
「食で育む
3つのチャレンジ!」

P17
すみだ食育goodネット
団体会員インタビュー

P21
「すみだの食育」のあゆみ

P25
すみだ食育goodネット
「1から始める夢プロジェクト」
メンバー紹介

1. すみだ食育goodネットとは

すみだ食育goodネットは、2009(平成21)年4月に発足した「すみだ食育推進リーダー会」をステップに、区民、地域団体、NPO、事業者、企業、大学等にて構成し、墨田区で食育を推進する団体として2010(平成22)年4月に設立しました。

墨田区食育推進行動計画=チャレンジプラン=(2010(平成22)年4月)にその誕生が明記され、以後、墨田区食育推進計画において、墨田区と協働で食育を推進する団体として位置づけられています。

この間、墨田区・内閣府主催による「第10回食育推進全国大会inすみだ2015」の開催(2015(平成27)年6月)では、墨田区との協働で大会運営を担うなど「すみだらしい食育」を育む環境づくりを行ってきました。

また、協働の食育推進の経験を活かし、2019(令和元)年度から墨田区の依頼を受けて特別区全国連携プロジェクトに関わり、関係人口、交流人口の創出を目指し、北海道芽室町と墨田区をつなぐ「芽」から始める「すみとかプロジェクト」を実施し、プレ事業から今年で4年目を迎えます。

2. 「10年プロジェクト」から見えてきたこと

すみだ食育goodネットが設立してから10年以上が経過し、これまでの取組を振り返り、この先の夢を描く機会として「10年プロジェクト」を立ち上げこの冊子の制作を始めました。そのタイミングで、2021(令和3)年度の墨田区食育推進計画改定作業にて墨田区から協力依頼を受けて行った「地域ヒアリング調査」を通して見えてきたことがありました。

そこで、今回の冊子vol.1では、立場や分野をこえた関係者の横のつながり、協働による取組が食育推進の環境をつくり、その環境の中で若者や子どもたちが育まれていることが明らかになった事例を紹介します。

特に、10年以上前に始まった若者たちが運営する「すみだ青空市ヤッチャバ」と地域に根差した「フレンドリープラザ墨田児童会館」とのつながりから子どもたちが「受け手」から「担い手」へと成長した成果が現れ、取組を継続してきたことの意義を実感しました。

「すみだらしい食育」を育む環境づくりでは、当初から「若者はパートナー」であり、子どもたちを育む食育の基盤は「官民協働の体制づくり」という大前提がありました。この10年はその環境づくりに重点をおき、様々な食育の取組を行ってきました。

この冊子では、協働の環境の中で、子どもたちがどのように成長し、若者たちが何にチャレンジし、その関係者たちがどのように関わってきたのかを解き明かしていきます。

「すみだの食育」で育まれた取組

「受け手」から「担い手」へと変容した取組について、すみだ食育goodネットが行ったインタビューを次ページから紹介していきます。

すみだ青空市ヤッチャバ

すみだ青空市ヤッチャバ(以下、「ヤッチャバ」とする)とは

現在、墨田区には農家も漁家も統計上1軒もありません。そんな墨田区に「つくる人」と「食べる人」との距離を縮め、両者がつながり、関係を深める場所をつくりたい。双方が豊かな暮らしを支え合える関係をつくりたい。この想いを胸に全国から生産者さんを招き、かつて墨田区内にあった青果市場「やっちゃん場」からその名の響きをいただいて、2011(平成23)年にヤッチャバは始まりました。作り手と食べ手の豊かなつながりをつくるべく、一歩ずつみんなで手を取り合ってヤッチャバをつくりあげていきたいと思い、取り組んでいます。

ヤッチャバの取組概要

☞P.3~「育まれたことその1、2、3、4」で、ヤッチャバで育まれたことをお伝えします。



フレンドリープラザ墨田児童会館

フレンドリープラザ墨田児童会館(以下、「墨田児童会館」とする)とは

墨田児童会館は、東武伊勢崎線の東向島駅と鐘ヶ淵駅の間に位置し、墨田区の児童館の中でも最大の規模と広さを持っています。近隣にはマンションや団地が立ち並び、複数の小学校にまたがる場所にあるため、乳幼児、小学生、中学生、高校生、保護者、大学生のボランティア等、毎日、幅広い年齢層の利用者が訪れます。館内には、利用者の多様なニーズに応えられるよう、乳児室、幼児室、体育室、図書室、音楽室等の様々な専用室が設けられています。また、館庭も、乳幼児、小学生をはじめ、地域の人々に利用されています。これらの施設を利用して、常時、学童クラブ、乳幼児プログラム、小学生クラブなど、多様なプログラムを提供しています。

墨田児童会館の取組概要

☞P.3~「育まれたことその1、2、3」で、墨田児童会館で育まれたことをお伝えします。



フレンドリープラザ
墨田児童会館



「すみだ農園キックオフ」
活動冊子2015 vol.6
制作:すみだ食育goodネット
(2016年4月発行)から抜粋



「すみだ農園キックオフ」
活動冊子2019 vol.10
制作:すみだ食育goodネット
(2020年4月発行)から抜粋

育まれたことその1

ヤッチャバに出店する 山梨屋 日原英明さんの熱い想いがカタチに

ヤッチャバに山梨県のおいしい農産物を届ける日原英明さんに墨田児童会館との出会い、ヤッチャバとの関係など、その想いについてすみだ食育goodネット(以下、「goodネット」とする)がお話を伺いました。

日原さん



①すみだと笛吹市(山梨県)がつながったきっかけ

goodネット すみだと笛吹市のつながりは、どのように育まれたのでしょうか?

日原 ヤッチャバで子どもとふれあう機会があり、地元・笛吹市にある古民家を使って遊ぶことができたら面白いのではと思い、墨田児童会館に話をしたところ、その古民家を活用したキャンプを開催することが決まりました。笛吹市でも都市農村交流の取組について検討が進められていたため、地元側のニーズとマッチしたことでこの取組は実現しました。

goodネット 日原さんの想いと、食育でヤッチャバと墨田児童会館がつながっていたことがこの取組のきっかけになったんですね。

②ヤッチャバと出店者さんの距離感

goodネット ヤッチャバに出店されていて、こういったことが実現できるんですね。驚きました。

日原 生産者とヤッチャバの関係は距離感が近くてフラクで、ヤッチャバが人間関係、信頼関係への気配りを10年間崩さず継続してやってくれているので、安心感があります。

goodネット ヤッチャバではキャンプに参加した子どもが売り子体験もされていましたね。

日原 お子さんが「お母さんもヤッチャバへ行ってごらん」という流れで親子の会話につながり、新たな接点もできました。

goodネット ヤッチャバの出店者同士の横の交流や仲間意識が地域に広がっていくんですね。

日原 生産者は出荷するだけではダメで、交流が大切。ヤッチャバの存在は大きい。

～未来を担う子どもたちに体験を通して何かを感じ学びとって欲しい!～

③インタビューのあとで

未来を担う子どもたちにいろいろな経験、体験を通して何かを感じ学びとって欲しいという日原さんの熱い想いがありました。



川遊びの様子

【キャンプの内容】

小学3年生から6年生を対象とした2泊3日のキャンプ。単なる交流お泊り体験でなく、3時間位かけてリュックをしょって満員電車に乗って鈍行で行く。日影がいかに涼しいか、がぶ飲みしたらすぐなくなる水筒の水をどうやってもたせるか、冷たい水でキュウリ、トマトを冷やす、食事も自分たちで作る、薪で風呂を沸かす生活体験、風呂に入らないのも自由、全部自分で行動、生活体験スキルが身につけられる場。社会へ出たの社会経験の意味で行く、生きる力、どうやって生き抜くか自然に身につけるまるごと体験キャンプ。



宿泊場所の古民家で全員集合

育まれたことその2

墨田児童会館と笛吹市(山梨県)のつながりから生まれた宝もの

墨田児童会館が企画した小学生対象のキャンプに、中学生になった渡桜城さんがサポーターとして参加しました。その時の体験について、墨田児童会館職員の稲見達哉さんと渡桜城さんにgoodネットがお話を伺いました。



キャンプの時の説明をされる稲見達哉さん

①墨田児童会館がつなぐ他地域交流キャンプの取組

goodネット 墨田児童会館がヤッチャバ出店者の日原英明さんから笛吹市につながったことで、実現できたことは何でしょうか?

稲見 「芦川自然体験キャンプ」を実現することができました。子どもたちは、何事も自分で行うキャンプに戸惑いながらも、最後には「楽しかった、また行きたい」と言います。スタッフが全力で手間をかけた対応に、自分で生活することの大変さを知りつつ、キャンプを楽しんでいた子どもたち。「墨田児童会館」と「ヤッチャバ」の二つのつながりから、新たな場を得て子どもたちがチャレンジできる環境に臨むことができました。

goodネット キャンプに参加した子どもたちはどう変わり、どう育まれたのでしょうか?

稲見 キャンプに行ってから、自分自身の事や荷物なども、自分で管理する事が身についたようです。保護者からは、子どもが変わった、手伝うようになったと聞きました。このキャンプの体験から、子どもたちは「たくましく生きる力」を育まれたと思います。

桜城さん



②キャンプに参加した桜城さんの話

goodネット 「芦川自然体験キャンプ」に参加して得られたことはなんですか?

桜城 何かに挑戦する、色々なことにチャレンジする気持ちが生まれました。キャンプでは、習得できることが多く、火おこし、薪わり、五右衛門風呂の風呂わかし、食事づくりなどにも挑戦しました。その体験の喜びを知っているから、難しいことでもチャレンジする気持ちになり、今、それが生きています。

goodネット 児童会館の企画に参加した経験から将来の夢につながったことはありますか?

桜城 今までたくさん体験して、たくさんの夢を持ちましたが、新聞等から社会が見えるようになってから、人のためになりたい、役に立ちたいと思い、高校生になった今、政治家になって、自分がお世話になった墨田児童会館に恩返ししたいと考えています。

③インタビューのあとで

お話を聞いて、桜城さんにとって墨田児童会館がどんなに素晴らしいところであったかが伝わってきました。子どもたちとの日常の関わり、関係づくりを大切に、その考えを職員が共有し、全力で愛情を持って接するという墨田児童会館の「ブレない精神」が本物である証だと感じました。子どもたちは、経験、体験、出会いを通して社会性が育まれ、次世代の育成が推進されていると実感できました。笛吹市とのキャンプ交流は、どのようなカタチでも、どこでも、食育でつながるチャンスがあることを教えてくれました。

おうき 桜城さん

～人のためになりたい、役に立ちたい、恩返しをしたい!～

育まれたことその3

墨田児童会館の「すみだ農園」のつながりから生まれた宝もの

「すみだ農園」は、2011(平成23)年度墨田区食育推進計画改定時の「すみだの食育の未来を考えるワークショップ」にて発案され、2012(平成24)年から墨田児童会館を中心にスタートしました。小学生の時に「すみだ農園」に参加し、その後、農業分野に進学した田口愛乃果さんにgoodネットがお話を伺いました。



「トマト先生」になって子どもたちとトマトクイズを楽しみました



①「すみだ農園」が将来の夢のきっかけに!

goodネット 「すみだ農園」に参加したきっかけと興味を持ったことはどんなことでしょうか?

愛乃果 小学校1年生の時に、墨田児童会館で「すみだ農園」というものがあると知り、お母さんと行ってみました。最初に体験したのがトマト(凜々子)の苗植えで、農業に興味を持ち収穫祭にもできる限り参加しました。

goodネット 農業系の高校、大学に進学したことで、どのようなことを感じましたか?

愛乃果 墨田児童会館で体験したこと、周りの方々の関わりも楽しかったです。お母さんも植物が好きで植物関係にいきたいと思いました。農業をやりたいと伝えたら「いいじゃない、合っているよ」と高校にも大学にも通わせてくれました。お母さんがいなかったら、あそこの児童館にも通わせてもらっていないし、つながりもなかったの、本当に大事だなと感謝しています。

育まれたことその4

ヤッチャバと多古町のたこまらいふ萩原農場 萩原宏紀さんのつながりから生まれた宝もの

ヤッチャバと多古町(千葉県)の取組を支える地域の中学生 鶴カナイナ寿竜(JURYU)さんにgoodネットがお話を伺いました。

JURYUさん



①ヤッチャバから多古町に行ったきっかけ

goodネット なぜ、多古町の萩原農場合同会社萩原宏紀さんのところへ行ったのでしょうか?

JURYU 小学3年生の時にヤッチャバの販売体験に関わって、萩原さんがやっていることに興味を持って、自分も行ってみたくて体験させてもらいました。

goodネット 稲刈り体験にはどうして関わったのでしょうか?

JURYU 多古町が千葉にあることも知らなかったのですが、萩原さんが「行ってみる?」と声をかけてくれたので、ヤッチャバが終わった後に一緒に車に乗って2泊3日一人で萩原さんの家に泊まりに行きました。稲刈りをやってみて、これをやっている人はつらいだろうな、しゃがんで。僕は最初に刃物を持った時は怖かったです。

goodネット ヤッチャバとはどういう場でしょうか?

JURYU いろいろな人と関われる場所です。小さい子もいれば、年上の方としゃべったり。もともと人と話すのは好きなわけではなかったけど、この経験をふまえて好きになりました。

goodネット ヤッチャバはいろいろな人と関わっているいろいろな人の考えを知ることができる場所なのですね。

JURYU ヤッチャバは楽しい。楽しいから続いています。寒い中でずっと立ってつらいとかもあるんですけど、僕は一緒にやっている萩原さんと話をし、それが面白い。萩原さんは魅力的。頭もいいし物知り。いろいろな話が聞けます。とても居心地はいいです。名前は知らなくても顔見ればわかるみたいなのがあるのです。

～体験を通して将来の夢をつかむ!子どもたちに農業の楽しさを伝えたい!～ あのか 愛乃果さん

愛乃果さん



②愛乃果さんにとっての墨田児童会館とは

goodネット 愛乃果さんにとって墨田児童会館の存在とはどのようなもののでしょうか?

愛乃果 墨田児童会館は、小さいころからいろいろなことを教えてくれて、例えて言えばお母さんみたいな感じ。優しい人たちがたくさんいて、農業や食についてとか、人との関わり方とかも教えてくださったおかげで、年上でも年下でもいろいろな人と話せるようになったと思います。

goodネット 将来どんな夢を持っていますか?

愛乃果 観光農園に就職することを目指していて、そこに来る子どもたちにいっぱい体験させてあげて、農業に興味をもってもらい、楽しいねって感じてもらえたらいいな。

③インタビューのあとで

愛乃果さんから、周りがやさしくしてくれる、楽しい、感謝しているという言葉がたくさん出てきました。愛乃果さんが、次世代の子どもたちにも目を向けて、農業の楽しさを伝えたいというところに感動しました。愛乃果さんはインタビューの中で、高校3年生の時に「農家さんと実際に会って話をしてみたいな、どこかないかな」と墨田児童会館館長の八重田裕一朗さんに話したところ、ボランティアの募集をしていたヤッチャバにつながってもらったと話していました。ヤッチャバに関わっていて、いろいろな人に出会って話しをすることが楽しいそうです。ヤッチャバと墨田児童会館のつながりの中で、子どもたちが育まれていると感じました。

～人とのつながりを大切にしながら、将来の夢を描いていきたい!～ JURYUさん

②萩原さん、ヤッチャバの本多秀行さんにも伺いました

萩原 ただ農家のことだけでなく、多古町のことを知ってもらいたい。地元愛があります。ヤッチャバに出店することで地元でのつながりが広がりました。今はつながりが広がりすぎて車に積みきれないほどになって、どうしようかと思っています。

本多 買い物の前にまずコミュニケーションがある、ということがヤッチャバの特徴の一つなのかなと思っています。出店者さんも地域の方も楽しみながら、おいしいものを食べて、地域のことやお互いのことを知る。こうした関係が続いていく場であってほしいなと思っています。

③インタビューのあとで

萩原さんは多古町を知ってもらいたいという地元愛を持ってヤッチャバへ出店され、人間関係、信頼関係を双方で高め合うことを大事にしています。出店者さん同士仲間意識が生まれ、win-winの関係が育っていると思いました。そんな関係の中で、JURYUさんが人とのつながりを大切にしながら将来の夢を描いています。



萩原農場のブースで販売しているJURYUさん 墨田区山本区長とJURYUさん

当事者の想い



「ゆるやかなつながりが、
しなやかなつながりに」

すみだ青空市ヤッチャバ 代表
本多秀行

すみだ青空市ヤッチャバは2010年に始まり、2012年後半から現在の場所でほぼ毎週開催してきています。

「食を介して人をつなぐ。
人を介して地域をつなぐ。」

発足当初に掲げられたこのコンセプトを出店者さん、事務局と毎週ヤッチャバを支えてくれる地域のみなさんと共有できているんだと、ぼくもヤッチャバに来る度に実感しています。

お買い物という、ゆるやかな関係性は、この10年間で様々な人のつながりを紡ぎ、毎週必ず声をかけてくれる地域の方、運営の手伝いを申し出てくれる地域の子ども(大人顔負け!)・若者のみんな、協力し温かく見守ってくれる町会・商店会、商店のみなさんと出店者さん・事務局を支えて、そして、ヤッチャバを育んできたんだと思います。

日常の暮らしの中の身近な場所で食育を通して育まれてきたこのつながりを、これからもみんなで大切にして、地域に根をおろしていきたいと思っています。

「トマトを育てていたら
地域が生まれ絆が生まれた」

フレンドリープラザ墨田児童会館 館長
八重田裕一郎

墨田児童会館の取組から

2013(平成25)年、私が墨田児童会館に着任した時、「すみだ農園」の取組は2年目でした。取組の目的は「地域のコミュニケーションを深めるため一緒に野菜を育て一緒に食べる」当館の前庭でもトマトを育て、とれたトマトをみんなで食べる「収穫祭」をすることになったのです。goodネットのメンバーや、学生さん、地域の方などにも集まっていたり、何度も会議をしました。忙しい方が多いので、いつも全員が集まれるわけではありません。素晴らしいと思ったのは、「来られる人だけで、できる範囲のことをやる」というスタンス。「重荷にならないつながり」という感じで、だから現在まで活動が継続してきました。新しい方も参加しやすいので、毎年新たな挑戦をすることができたのだと思います。食育活動を通して、歯科医師や企業とのつながりが生まれました。ヤッチャバとのつながりから、売り子体験やこども商店街、山梨県でのキャンプ体験もできました。私たちだけでできることには限界があります。goodネットの活動に参加することで生まれた「新たなカタチのつながり」は、今後の児童館の活動になくはならないものだと思います。



「『地域を育む』おせっかい」

(有)佐々木栄五郎商店 魚八栄五郎
佐々木直子

「墨田区食育推進計画」を全く知らなかった私が、7人の子育てでずっとお世話になった墨田児童会館をモデル地域としたワークショップに参加したのは2016(平成28)年です。「食」を職業にしてきた経験と地域とのつながりを、どのように役に立てたら良いのかをそこで学びました。その時、出会った仲間と始めた「食19会」の目的は、とにかく19日に墨田児童会館に集まって、「食育」を軸にこの地域の宝である「人」を結び付けていくことと、子どもたちに直接関わる「若い世代」である職員の皆さんを全力で応援して、地域独自の新しいアイデアを出し合い、それを確実に実現することでした。

「無理なく、楽しく」をモットーに、地域のイベントや、墨田区保健計画課の職員さんやgoodネットさんと協働した食育の活動への参加、墨田児童会館の「すみだ農園」から、墨田区唯一の地域農園「たもんじ交流農園」ともつながり、子どもたちが食について考えるきっかけとなり、記憶に残る活動を積み重ねてきました。

これからも「防災食」への取組や、「地域の人たちと子どもたちが織りなす、多世代がゆるりと一緒に過ごせる場づくり」というおせっかいを続けていきたいと思っています。



子どもたちに、お店のことや商品の説明をする佐々木さん

「手間ひまかければ
自然と次につながる」

地域の若者
清水健太

大学2年生だった2012(平成24)年、「すみだの食育」に関わるワークショップに初めて参加。そこでの出会いや経験がきっかけで2013(平成25)年春に墨田区へ引っ越し、以降も食育へのゆるやかな関わりを続けてきました。2016(平成28)年には墨田区食育推進計画改定に向けてのワークショップにファシリテーターとして関わりました。そしてワークショップから生まれた「食19会」という活動を、5年にわたり記録係としてサポートしてきました。

私の立場は単なる「大学生」から「大学院生(大学助手)」や「地域の若者」へと変わったのです。それでも、活動の主たる担い手というよりはサポート役として、時々自分にできること・やりたいと思えることを一つひとつ積み重ねることができました。そして結果的に9年間「すみだの食育」に関わり続けることができました。それは、「すみだの食育」のみなさんが「無理なく楽しく活動しよう」というスタンスでいるからだだと思います。「無理なく楽しく」だから活動に手間ひまをかけられる。手間ひまかければ、新たな出会いや活動に自然とつながっていく。そんな好循環の中で、20代の私は大いに育てていただきました。(これぞ「食」を通じて「人」を育む「すみだの食育」!?)
これから、「すみだの食育」で学んだことを研究者として発揮していくつもりであり、また「すみだの食育」のみなさんとも「無理なく楽しく」関わり続けていきたいと思っています。



① 「食育」で何を育んできたのか?

2005(平成17)年に食育基本法が制定され、2006(平成18)年に国は食育推進基本計画を策定し、各自治体も順次策定する流れとなり、墨田区は2007(平成19)年度に墨田区食育推進計画を策定、2010(平成22)年度に墨田区食育推進行動計画を策定し、以後、墨田区食育推進計画として改定を続け現在に至ります。

食育基本法に基づき、めざす姿、推進体制、事業、計画の評価など、どのように考え食育推進計画を策定するのか、未知の世界を手探りで進むような全国一斉のスタートでした。

行政組織の中で「食育推進」を担当する部署をどこに置くのか、保健、教育、産業、農政など、自治体によって様々でした。食育=食教育というイメージから、保健や教育部門に置かれることが多く、墨田区でも食育の担当は保健衛生担当保健計画課となりました。

食育=食教育のイメージで保健部門に担当を置き推進することは、従来の発想からとてもわかりやすいのですが、直ぐに壁にぶち当たることは目に見えていました。なぜなら、これまで

も保健、教育、福祉等の分野では様々な対象に食教育をしてきた長い歴史があり、今更、食育と銘打って食教育を進める意味がどこにあるのか混迷してしまうからでした。

そこで、墨田区はどうしたのか?という、食育基本法の特長を活かし、食の課題の裏にある真の課題に着目し、そこに共通するのは「協働」であると確信し「食育推進」を手段に「まちを育む=まちづくり」の道を目指したのでした。

すみだ食育goodネットはその墨田区と一緒に「官民協働」の環境づくりに取り組み、民だからできることを担いあきらめずに活動してきました。

この墨田区独自の推進が果たして実を結ぶのかと思われましたが、本格実施から7年が経過した2015(平成27)年6月、初めて内閣府の指名を受け、基礎自治体*である墨田区が「第10回食育推進全国大会inすみだ2015」を実施することになりました。

*基礎自治体:国の行政区画の中で最小の単位、日本では、市町村と特別区(東京23区)がこれにあたる。

次世代の担い手を育む環境づくり



次世代の担い手を育む環境づくり

② 「すみだらしい食育」に 手間をかける意味とは?

墨田区独自の推進を表現したのは「すみだらしい食育」という言葉でした。この「らしさ」を「食育」とつなげることで、新たな推進の方法を生み出すきっかけとなりました。

当時、そして今でも様々な分野の課題の裏には、縦割り組織(垂直型分業システム)、上下関係、個別バラバラ、希薄化等の問題があり、そこから着手する動きが求められていました。そこで『協働で進める「すみだの食育」』にこだわり、ブレずに取り組み続けることで墨田区食育推進計画のめざす姿「みんなが笑顔でたの

しい食環境を通じて豊かな人生をおくる」へとつなげて行こうとしました。「すみだらしい食育」を推進するのは「人」です!その人の価値観、発想に基づく行動が鍵となります。

そして、もう1つが「しくみ」です!立場をこえて、分野をこえた協働のしくみが子どもたちの食育を取り巻く環境をより豊かにしていきます。この「人」と「しくみ」に手間をかけることを貫いた10年を経て、次世代の担い手が誕生し始めていることがやっと見えてきたのです。

③ 次世代の担い手を 育むカタチ

次世代の担い手を育むことができるかどうか、仮説を立てて検証するにはある程度の年数が必要で、年数が経過してもその成果がどのタイミングで生み出せるかはやってみないとわかりません。思わぬチャンスに恵まれることもあり、思わぬアクシデントに遭遇することもあります。それらをポジティブに受け止めて取り組んできました。

まずは、大人たちが立場や分野をこえた協働のネットワークをつくり、そのネットワークを官民協働で支援する土台をつくる、その環境の

中で子どもたちを育むというカタチ(図:「次世代の担い手を育む環境づくり」参照)をつくること、あきらめずに継続することでその先に成果が生まれるのだということがわかりました。もし、食育=食教育のイメージで食育推進をとらえ、食教育の事業をメインに取組を重ねていたら、従来の取組の枠をこえられずにいたかもしれません。

「すみだらしい食育」という冒険ともいえる道のりから「次世代の担い手を育むカタチ」をつかむことができたのではないのでしょうか。



山崎製パン株式会社 元販売物流本部 セールス部長 早川立氏（左）
営業教育部長 大上敏彦氏（右）

山崎製パン株式会社インタビュー
共通するのは
ビジョンをもって
ブレない取組

山崎製パン株式会社様には「すみだの食育」の初期の段階から一緒に関わっていただきました。
早川立氏、大上敏彦氏のお二人にお話を伺いました。



墨田区との関わり

goodネット 「すみだの食育」と山崎製パン株式会社との出会い、そして、どのような印象をお持ちですか？

山崎製パン株式会社（以下、ヤマザキとする） その出会い、農林水産省の食育先進地モデル実証事業の実施地域として墨田区が選ばれ、複数の事業を実施する中で弊社の「サンドイッチ教室」を開催したことからご縁が生まれました。以降、毎年6月に墨田区で開催された食育フェスティバルにて「サンドイッチ教室」を実施していました。

「すみだの食育」は、墨田区食育推進計画書の内容（目標やスローガン）がしっかりしていて、ブレずに活動していることが印象的です。また、参加している人がそれぞれ当事者意識をもって、積極的に活動され、前向きだという印象があります。

goodネット サンドイッチ教室を通してどのような関わりがありましたか？

ヤマザキ サンドイッチ教室は、当初は子ども向けに実施していましたが、高齢者施設から依頼があり、高齢者向けの教室を行うことになりました。おおくば歯科医院の歯科医師の大久保先生（goodネットの会員）から、口腔ケア、誤嚥、食形態等についてアドバイスを受けたことで、新しい展開につながりました。

山崎製パン株式会社の人づくり

goodネット 私たちは食育活動を通して様々な企業、団体等の方々と出会いますが、山崎製パン株式会社の社員の方々は担当が変わっても同じ姿勢で関わってくださいます。以前からお伺いしたいと思っていたのですが、人づくりはどのようにされているのですか？



写真左：食育を推進する「人材育成プログラムワークショップ」

写真右：食パンの耳を巻き込んだロールサンド

「食で育む人づくり」

制作：墨田区保健計画課（2015年3月発行）から抜粋

「すみだ食育goodネット」を長年応援して下さる理由

◆弊社従業員の行動規範となる「経営基本方針」

ヤマザキ 弊社には企業理念や従業員の行動規範が示されている「経営基本方針」というものがあり、すべての従業員はこの「経営基本方針」を、仕事に従事する上での指標としています。その冒頭に「わが社は企業経営を通じて社会の進歩と文化の向上に寄与することを使命とし」という一節があり、従業員はその理想に近づくべく日々の業務に従事しています。その精神を大切にしていることが、担当が変わっても同じ姿勢で関わることができるのだと思います。

◆担当が変わってもブレない理由

ヤマザキ いつも管理職と社員と一緒に担当し、内部でしっかり情報を共有しています。上下関係を感じさせない職場の環境づくりをしていると感じます。会社全体がそのような方向性を持っています。私たちの会社の事業は、全国的にも影響が大きいので、子どもたちの安全を第一に考えて活動しています。コロナ禍の現在、安全が確保できない時は「NO」を貫くときもあります。すべてのお客様にご迷惑をおかけしないことが、ブレない思いです。

goodネット すみだ食育goodネットを応援して下さる理由は何ですか？

ヤマザキ サンドイッチ教室の依頼をいただいても、いざ現場に行くと冷たい態度を取られたことがありましたが、すみだ食育goodネットではそういうことはありません。goodネットにはビジョンがあり、ブレない目的があると感じています。

「山崎製パンが応援してくれている」と言っていたのですが、応援しているという上から目線ではなく、参加させていただいている、お手伝いをさせていただくと思っています。

goodネット 私たちからすると、山崎製パン株式会社が一緒に活動して下さることが、とてもありがたいと思っています。私たちとしても、山崎製パン株式会社のみなさんからブレない姿勢を学んでいきたいと考えています。

ヤマザキ 弊社をご利用いただいていることは、いずれ会社にも返ってくるのでありがたいと思っています。全ての方がお客様だと思って活動しています。

（新型コロナウイルスの影響により、現在は店頭のご試食の提供やサンドイッチ教室の実施を見合わせております。）



写真左：山崎製パン(株)の担当者から子ども向け食育プログラムの紹介

写真右：福島県「なみえ創成小学校・中学校サンドイッチ教室」

「食育の芽第15号」

制作：すみだ食育goodネット（2020年1月発行）から抜粋



墨田区長インタビュー

食育で！「子どもたちの夢」を育む

墨田区の山本亨区長に「すみだの食育」で誇りに想うことを伺いました。

goodネット 「第10回食育推進全国大会 in すみだ2015」の印象はいかがでしたか？

区長 「手間かけて みんながつながる すみだの食育」を、すみだ食育goodネットさんが中心となって一生懸命やってこられたことで、全国大会の開催地として内閣府が墨田区を指名してくださいました。基礎自治体での開催は全国初とのことで、これは素晴らしいことだと思いました。全国大会を本区から発信し、より良いものにしようという想いが詰まった地域ぐるみの大会になったのが大きな特徴だと思います。「夢をカタチに！未来につなぐ豊かな食育～手間かけて”食で育む”人とまち～」という大会のキャッチフレーズは改めて良いなと思いました。区も一緒になって協働でやれたこと、本区の地域力の高さを感じました。「地域力日本一」をめざしていきたいと素直に思った大会でした。

goodネット 「すみだの食育」を通して子どもたちが「受け手」から「担い手」へ育まれていることについてはどう思われますか？

区長 食育に取り組む方がしっかり企画し工夫しても、多くの方に伝えるのはむずかしいのですが、その活動を一生懸命やり続けてきたことで、次世代の担い手が育まれてきたと思います。色々な地域や活動の中で、就学前の子どもや小学生、中学生など、子どもたちが食育について認知をし、自然なうちに活動に参加をしていく。「食育って大事なんだ」「将来に活かしていきたい」と感じてもらうことで、次世代を担っていく人材が育っているのだと思います。

まさに、次世代の担い手を育むには、長い時間をかけ、手間をかけていくことが大切なのだと感じております。



「第10回食育推進全国大会 in すみだ 2015」開会式



「いらっやいませ～」こども商店街の様子
「食育の芽第8号」制作：すみだ食育goodネット(2017年8月発行)から抜粋

goodネット 「協働」で育む「すみだの食育」についてどのようにお考えですか？

区長 「協働」は原点だと思います。墨田区食育推進計画を推進していくにあたって、この原点を忘れることなく、官民協働という意味では私たちも、もう少し反省を含めて、しっかり頑張っていきたいと考えています。皆さんと様々な意見交換をして、より良く改善していくことが大事だと思います。SDGs(持続可能な開発目標)の目標17に「パートナーシップで目標を達成しよう」というものがあります。これが、協働ですね。このパートナーシップとしての協働を区としてこれからも活かして、しっかりやっていきたいというのが、今の私の想いです。



「芽」から始める「すみとかプロジェクト」Ⅲ
すみだ&めむる交流「子ども」ワークショップ
「ヤッチャバ売り子体験」2022年1月実施

goodネット 食育で子どもたちの夢を育む、山本区長からのメッセージをお願いします。

区長 すみだ食育goodネットさんは、食育の取組を通して広く都市間交流も続けていただいています。私も見ていて、墨田区の取組は先進的であると感じています。特に、相手の地域の方々には、「すみだ食育goodネットの皆さんは、本当に温かい人たちだな」、という想いが根底にあって、ものごとが動いていくんだと感じています。

子どもたちや児童館、すみだ青空市ヤッチャバなど、皆さんが人の温かさを持っていて、他の地域と交流した時に「墨田区は人の温かさやつながりがあるところなんですね」と、協働について実感していただけることがあるんだと思っています。熱い想いを持つこと、丁寧にやっていくことが大事だなという話を聞いていて思いました。

子どもたちにも「ふるさとすみだ」のよさを感じてもらい、そうした環境の中で育ってもらう。これからも食育の取組への期待は大きいと感じています。



新たな「墨田区食育推進計画」策定に向けた報告会 「食育の芽第7号」制作：すみだ食育goodネット(2017年3月発行)から抜粋

すみだのかかし物語

「すみだの食育」に、初めてかかしが登場したのは、10年ほど前の食育フェスティバル。

麦わら帽に野良着姿の早稲田大学の学生さんが、ギターを片手に歌を披露してくれました。その側に「かかし君」がちょこんと寄り添っていました。それをきっかけに「かかしをつくろう!」と声が上がリ「すみだの食育」を一緒に育んでくださる方々をモデルに、何体もつくりました。すると、その周りには、人が集まり笑顔の輪が広がり、手作りの「かかし」が人と人をつないでいったのです。「かかし」のいる風景はどこか柔らかくて温かい感じがしました。

仲間と一緒に「かかし」をつくるわくわく感、その「かかし」を通して笑顔で人がつながる様子にいつしか魅了され、「かかし」づくりは仲間づくりだと気づきました。山本亨墨田区長が就任された年、墨田区では「第10回食育推進全国大会inすみだ2015」が開催されました。官と民がお互いを尊重し協働で育む「すみだの食育」を全国大会につなげようと、私たちは区の職員と共に一生懸命取り組みました。そして、「全国大会を山本区長さんと一緒に!」との思いから山本区長さんの「とおる君かかし」が誕生したのは、この時でした。全国大会当日、オレンジのTシャツをまとった「とおる君かかし」がさっそうと展示会場の入口に立ち、全国から来られた参加者のご案内役となりました。

とうとう本物の区長さんが来場され「とおる君かかし」のご対面。お出迎えした「とおる君かかし」と共に私たちはドキドキでしたが、その場はすぐに笑顔の輪が広がり、瞬時に人と人がつながる感動がありました。

後日、その時の印象を山本区長さんにお尋ねすると「これはすごい!」と驚かれたそうで「とおる君かかし」は山本区長さん公認となったのです。この場を通して「かかし」が私たちの思いをつなげてくれたこと、今度は私たちの方が「これはすごい!」と感動したのです。goodネットは2019(令和元)年度に墨田区の協力依頼を受けて「特別区全国連携プロジェクト」にて北海道芽室町と協働で「芽」から始める「すみとかプロジェクト」を開始することになりました。芽室町への事前視察の際には、メンバーが「とおる君かかし」を抱えて一緒に十勝帯広空港へと飛びました。そして、芽室町役場での打ち合わせに同席し、その場で「とおる君かかし」が話題となり、芽室町長ともご対面、人と人、地域と地域をつなぐ役割を果たしました。

2021(令和3)年度は、芽室町と墨田区で「子どもワークショップを行うことになり、私たちは「かかしづくり体験」を通じた交流事業を企画しました。「すみだっこ」も「めむろっこ」も楽しそうに工夫しながら「かかし」をつくり、ユニークで立派な「かかし」が誕生しました。この「かかし」が交流の輪を広げ、お互いの地を想い合うきっかけとなったのです。今では、子どもたちを育み、つながりを育む大切な存在になりました。これから「すみだの食育」を舞台に、子どもたちの豊かな発想でどんな「かかし」が誕生し、つながっていくのか、今はその物語の続きを想うと、わくわく感でいっぱいになります。



「芽」から始める「すみとかプロジェクト」III
すみだ&めむろ交流「子ども」ワークショップ「かかしづくり体験」2022年1月実施



山本区長さん
公認!
とおる君
かかし

「食で育む 3つのチャレンジ!」



すみだ食育goodネットは設立から10年を経過し、墨田区が「めざす食育」に向けて行政との協働で様々な取組を行う団体として育ってきました。

“私のような商人”が食育を推進する立場にあるのか?なぜ自分なのか?と思いつつも、3代目理事長のバトンを引き継ぐ覚悟を持ちました。そこには「第10回食育推進全国大会inすみだ2015」の地域部会長を担当した際の体験がありました。大会準備のプロセスで、行政組織の縦割りによる弊害を目の当たりにし、部会の先行きが見えなくなり混迷しました。その時、部会のメンバーが私に力を貸してくれて、その弊害を突破することができたのです。

この体験から「食育」で多分野の人とつながることで、諦めていた何かを変えるきっかけになると希望を持ち、この先の夢を実現していきたいと考えました。

1. 食育で「しくみ」づくり

これまでの食育の取組を振り返り「10年プロジェクト」を本格的にスタートし「食」を手段に人と人をつなぐ関係性を紡いでいきたいと思います。

行政とすみだ食育goodネットが協働で食育推進を成し遂げるために、時間をかけて丁寧に進め、今後の食育推進に役立てたいと考えています。

2. 食育で地域の「拠点」づくり

協働による食育の推進や「SDGs」の17番目のパートナーシップを意識し、区内の団体等や他地域との交流が大切になります。これまで、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター(相双地域)、特別区全国連携プロジェクトによる北海道芽室町とつながりました。これらの取組から「人と人」が気軽に集まり交流ができる「拠点」が必要だと感じています。今まで「若者」と一緒にカタチにしてきた取組、今後の世代交代など「拠点(仮称)食育ステーション」をつくることで今後の展望が拓けるのではないかと思います。

3. 「未来プロジェクト」へのあゆみ

食育で「人と人」が笑顔でつながり、次々と新たな取組を創生する「拠点」づくり、そこからは、世代や分野をこえた多様なネットワークが生まれ、日本全国、世界へと交流の輪が広がるという夢をもっています。これからのあゆみを「未来プロジェクト」として、さらに進めていきたいと考えています。



2014年6月18日の食育月間に開催された「ワークショップ“まちとまち つないで育む 食の縁” 第10回食育推進全国大会に向けて」に参加した佐伯信郎氏

Interview



会員のみなさまにすみだの食育の10年のあゆみの中で印象に残っている事や、今後goodネットに期待する事などについてお答えいただきました。

向島・京島・押上・東向島地域

株式会社 アイエスゲート



これまで歩んできた中で一番印象的だったのは『手間かけて すみだ食育 てんこもり2016』です。多くの来場者の方々や、出展企業の皆様と交流を持たせたことで、すみだの食育の魅力をより感じる事ができました。

おおくぼ歯科医院

”すみだの食育活動”は、とても先進した活動です。より一層と盛んになればよいなあと希望しています。一歯科医としても、食べること、食べる機能でよりご協力して、お身体の健康増進にお役に立てればと考えています。

さくら橋コミュニティセンター

他の地域との交流

有限会社 三善豆腐工房

「第10回食育推進全国大会inすみだ2015」では地域部会の副部長を担当させていただき開催までの紆余曲折を関係者の皆さんと経験できました。庁内の他部署や他団体との調整は苦労もありましたが全国大会ではそんな垣根を感じさせない献身的な協力をいただき墨田区を誇りに思いました。



下町人情キラキラ橋商店街

変わりゆく墨田で昭和レトロのたたずまいを醸し出すこの京島地域において、時代は変われども下町人情を大切に地域の皆さまとともに歩むキラキラ橋商店街です。どうぞよろしくお願いいたします。



すみだ青空市 ヤッチャバ

10年間で多様な人とのつながりが生まれ、ヤッチャバとしても活動開始当初には思いがけなかった出会いや展開が生まれたことが印象に残っています。今後も食で地域の人とのつながりが育まれていくことを期待します。



すみだインターナショナル

すみだ街かど食堂を始めた事。幼児から高齢者迄が楽しく交流出来る場所があることに大きな意味があると思います。今後は、この様な交流の場を含む拠点が出来る事を期待します。

すみだ水族館



すみだ水族館が開業した2012年の冬の食育イベントへの参加以来、「第10回食育推進全国大会inすみだ2015」、毎年の食育イベント等で「いきものとゴハン」をテーマに水生生物の「食」についてご紹介させていただきました。10周年を迎えるすみだ水族館をこれからもよろしくお願いいたします。

NPO法人 てーねん・どすこい倶楽部

「楽しく食べて元気100歳!」をスローガンに、墨田区食育推進計画に沿って、行政、企業との協働事業を推進。食育フェスティバルを皆で一緒にやってきました。これからも食育は大事です。決してなくなりません。

電気湯

食育に取り組む団体のネットワークとして行政としっかり協働しているところが最高です。



文花中地区青少年育成委員会

「第10回食育推進全国大会inすみだ2015」で力を合わせたことです。共通の目標に協働できることを期待します。

墨田・八広・文花・立花・東向島地域

医療法人社団桜ゆう会 おおさわ歯科クリニック

友成先生が講師をなさった研修会が印象的でした。実際の食育活動にとどまらず携わる人を育てる研修会を開催していたことは素晴らしいと思いました。すみだ食育goodネットのビジョンの大きさを感じて感動しました。



男の料理教室「すみだ食遊会」

すみだ食育goodネットの活動を地域の人に、もっと知ってもらうことは会員だけでなく、底辺を拡充していくことが大事と考えます。『すみだ食遊会』では、すみだの食育活動にも積極的に取り組んでいます。

花王株式会社

食事の改善や運動の継続はとても大変。花王では、楽しく実践できる健康活動を応援しています。

紙芝居師 ちっち

「第10回食育推進全国大会inすみだ2015」

開催の想い出。

開会セレモニーを紙芝居で演出のほか大江戸ヤッサン一座仲間と錦糸公園出店し、お菓子提供の食も含めた紙芝居文化を発信できた。今後は多文化共生と防災、フードロスと貧困問題解消へのアプローチも期待。



有限会社 亀屋

「第10回食育推進全国大会inすみだ2015」

当時のすみだの食育は、秋田さんを頭に協働が成立していた時代でした。ココ最近では、協働で取り組むことが難しく悩ましいです。官民協働、岸田総理も言っていましたので、再び!



有限会社 佐々木栄五郎商店 魚八栄五郎

息子から紹介されて「すみだ食育goodネット」を知りました。「こども商店街」で子どもたちに実際に調理に触れてもらい、自分で作ったコロケを持ち帰って、家族と一緒に食べてもらうという企画が好評でした。

フレンドリープラザ墨田児童会館

すみだ農園。この活動が始まったから今の墨田児童会館がある。感謝です。今後もつながりが続く活動を期待したいです。

すみだ地域栄養ネットワーク

●「第10回食育推進全国大会inすみだ2015」。すみだ地域栄養ネットワークの活動を様々な方々に知っていただくきっかけになったこと。●「すみちゃんカレー」を通しての「すみだの食育」●goodネットの皆様の活動を知ることができたこと。

公益社団法人 東京都向島歯科医師会

「すみだの食育」と共に歩み、多分野の人と出会い、協働で進める食育の大切さを実感! 歯科医師、地域の多職種、企業の方々と一緒につくる「口腔ケア講習会」のつながりを活かし「地域完結型」の歯科保健を目指したい!

NPO法人 とらいあんぐる すみだ花工房

10年間ありがとうございます。「第10回食育推進全国大会inすみだ2015」が墨田区で開かれ、食について考えさせられるよい機会になりました。

肉の山平や

区民のみなさまに安全安心の食肉をご提供させていただく事に、従業員一同取り組んでおります。

フレンドリープラザ文花児童館

食を通じて連携協力ができればと思っております。



東駒形・本所・石原・亀沢・両国・千歳地域

感性とコラボレーション研究会

協働の推進を原点に「人づくり」、「まちづくり」を貫いてきた「すみだの食育」のあゆみは貴重な取組! 新たなステージを目指して、「食」を通して多くの人がつながり、子どもたちの豊かな感性を育てていきたい!

株式会社サンコー

冊子の制作をお手伝いさせて頂く中で様々な活動を知ることができました。

★この冊子では便宜上、墨田区を4つ地域に分類しています。

株式会社 隅田屋商店

「第10回食育推進全国大会 inすみだ2015」



東京東信用金庫



墨田区・気仙沼市・気仙沼信用金庫・東京海洋大学・千葉商科大学・すみだ食育goodネットのみなさまと協力して開催した食育事業「さかな大好き!」では気仙沼市の魚を通して漁師や漁業とすみだの子どもたちをつなぐことができました。

フレンドリープラザ外手児童館

「こども商店街」や「すみとかプロジェクト」が印象に残っています。現在コロナ禍にあり、食育プログラムを進めることが難しいこともありますが、人々の生活に欠かせない食を通じて人と人とのつながりが広がっていいと良いと感じます。



株式会社 平和堂

事務用品・事務機器・オフィス家具のことならなんでもご相談ください。みなさまとのつながりから、地域の活動を応援しています。

株式会社 藤江

食で地域を結ぶ活動にあらゆる世代が関わって育まれていると感じています。街かど食堂のような年齢問わず、将来を担う子ども達と共に活動していることが印象的でした。食の仕事に携わる一員として私たちが是非つながりを持ってあゆんでいきたいと思っています。



株式会社ルネサンス

保育園、幼稚園、小学校などへの食育出前授業や区民のための「お笑い食育ライブショー」「食育ウォークラリー」など、楽しみながら学べる仕組みを実践しています。



業平・錦糸・江東橋・横川・太平地域

押上よしかつ

「第10回食育推進全国大会 inすみだ2015」区内全域で幅広い内容だったのが良かった。



食育に対する人々の期待の大きさを実感。地域貢献出来る食育に期待

勝手串 花火

今後期待する事として一緒に何かを作ったりしてまずは食事の大切さや美味しさ楽しさ等に気づける機会作りに期待します。

錦糸町駅ビル内科クリニック

「第10回食育推進全国大会 inすみだ2015」をはじめ、様々な機会を通して多くの方とつながることが出来たことをうれしく思います。食事の基本は、水だと考え、SDGsも鑑み、川に囲まれた墨田区が、水源保全などにも注目していただきたいと思っています。

株式会社 スマイルフーズ

goodネットは、普通に気張らずにやれるところだと思っている。みんながわかりやすく、入りやすい流れができて、若い人や食育への意識を持っている人がもっと増えていってほしい。

そばの里 みつまさ

食べ物を提供する団体、墨田区食品衛生協会では、安全な食べ物(食中毒及び感染症を出さないこと)に全力で取り組んでいます。

フレンドリープラザ江東橋児童館

「こども商店街」では、児童館の子どもたちが【食】の知識を深めると共に、地域の方々とも交流できる場でも良かったと思っています。今後はより世界の【食】に目を向けた取組をし、視野を広げ改めて「すみだの食育」について考える機会があればと思います。



和のごはん みかづき

「第10回食育推進全国大会 inすみだ2015」があったこと



墨田区外

株式会社アルフォ

弊社は区内小中学校で発生する給食残さのリサイクルをしております。弊社のような静脈産業も身近にある事も、特に子どもたちを中心に理解が進む事を願っています。

おいしいワカメの寿物産 株式会社

健康の基本は食事ですが、食事は各家庭・個人の人々の好みや偏りがちになる傾向もあります。食育の啓もうを通して、より多くの人が食育の大切さを知り、継続いただくことを期待しております。特に、弊社でご提供している「わかめ」などの海藻類は、健康にも良い商品ですのでぜひよろしくお願いいたします。

三信化工 株式会社



すみだ食育フェスに直近5年間展示させていただきました。特にコロナ下では対面が難しい中、すみだ食育goodネットのみなさまのご尽力のおかげで途切れることなく「うつわから広がる食育」展示ができたことは印象に残っています。

一般社団法人 すこやか食育エコワーク

人と人がつながること、ひとつひとつ丁寧に作りあげること、みんなで作ることを身近で感じ、手間がかかって大変そうだという思いと、発想が新鮮でワクワクする思いが両方あります。少しづつ次の世代にバトンを渡すような仕組みづくりと、食育の可能性を拡大するような活動の継続を期待します。

株式会社 地域力活性化研究室



各種コミュニケーション事業の企画、計画、実施、運営の業務を行っています。

一般社団法人 つむぎや

立場も年齢も異なるたくさんの人達と膝を突き合わせて、「本当に大切なことはなにか」ということを真剣に話し合えたこと。こういう積み重ねが本当の意味で地域をよくしていくんだろかなと実感できた。



東京ビジネスサービス 株式会社

goodネット発足時から皆様と知り合えたこと、一緒に「すみちゃんカレー」を育てて頂いた事が何よりの財産です。スタッフの皆様の引き続きのご活躍を期待します。

株式会社 明治

当社の製品等を通じ、今後も食育に貢献出来れば幸いです。

株式会社 やおきん

時代を超えて親しまれている菓子など、遊び感覚があふれる楽しいお菓子の企画から、販売までをトータルにプロデュースしております。



山崎製パン 株式会社

「手間かけて“食で育む”人とまち」という合言葉通り、地域関係者やみんなの笑顔が印象に残っています。中でも、墨田区長の前で取り組んだ、墨田区食育推進計画の報告会では貴重な体験をしました。

NPO法人 幼年教育・子育て支援推進機構

弊機構で開催し、ご協力を頂いております「食育シンポジウム」を今後とも継続していきたいと考えております。引き続き、ご支援ご協力を頂きますよう宜しくお願いいたします。



ワーカーズコープ東京東部事業本部

「第10回食育推進全国大会 inすみだ2015」が墨田で開催され、そこからgoodネットさん、立川児童館、地域が連携をとりながら「食育」を通して同じ目的に向けて活動できているのが楽しく思っています。特に「ひまわりカフェ」が印象に残っています。今後活動が円滑に実施できるよう準備していきたいと考えております。



すみだ食育goodネット団体会員インタビュー

Interview

2022(令和4)年3月現在

★この冊子では便宜上、墨田区を4つ地域に分類しています。

すみだの食育のあゆみ

・黒文字…[官] 区役所 ・赤文字…[民] すみだ食育goodネット ・緑文字…[官・民] 両方で対応

2007(平成19)年 から 2011(平成23)年

官
官主導～
民主導へ

民
「食で!育む」
すみだの食育への
めざめ!

- ・墨田区食育推進計画策定 (平成19年6月)
- ・墨田区食育推進行動計画策定(平成22年4月) 内部委員会、外部委員会 「民区(みんく)たんく」実施
- ・墨田区食育推進計画改定 作業ワークショップ、報告会 実施(平成23年度)



「こと」 ～ 墨田区 ～

2012(平成24)年 から 2016(平成28)年

官
官民協働～
官民協創へ

民
手間かけて
一緒に汗かく
すみだの食育!

- ・墨田区食育推進計画改定 (協働計画) (平成24年6月)
- ・墨田区食育推進計画改定 作業こともワークショップ、おとなワークショップ、報告会 実施(平成28年度)
- ・墨田区食育推進計画改定 作業定性評価ワークショップ 実施(平成28年度)
- ・親子で食育キャンペーン 実施
- ・災害時食支援ネットワーク 検討会発足
- ・「災害時要支援者の食支援体制」墨田区防災計画へ反映

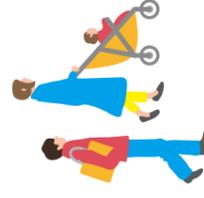


- ・墨田区食育推進計画改定 作業定性評価ワークショップ 参加
- ・親子で食育キャンペーン 参加

- ・災害時食支援ネットワーク 検討会委員として参加

- ・「災害時に食への配慮が必要な方への理解と食支援のポイント」作成

- ・墨田区環境改善功労者・功労団体区長感謝状



継続

講演会(区との合同開催)

継続

2017(平成29)年 から 2021(令和3)年

官
官主導～
協働回復へ

民
協働で育む
未来
プロジェクト!

- ・新たな墨田区食育推進計画改定(協働計画)作業 (平成29年6月)
- ・墨田区食育推進計画改定 作業(令和3年度)
- ・墨田区食育推進計画改定 作業地域ヒアリング部会 実施
- ・墨田区食育推進計画改定 「SDGsと食育」を考える 検討会実施

継続

- ・防衛省自衛隊東京地方協力本部城東地区隊本部 江東出張所区を区へつなぐ

継続

- ・すみだ食育フェスティバル 開催 (区主導(展示)⇒実行委員会⇒運営委員会)



- ・農林水産省食育推進 モデル実証事業実施
- ・食育講演会実施
- ・食育シンポジウム実施
- ・食育教育実施

- ・農林水産省食育推進 モデル実証事業参加
- ・食育講演会参加
- ・食育シンポジウム参加
- ・食育教室参加

- ・すみだ食育推進リーダー会 発足支援⇒統合化

- ・すみだ食育推進リーダー会 発足

- ・すみだ食育goodネット 設立～活動支援

- ・すみだ食育goodネット 設立～活動

- ・食育普及啓発活動を開始 (区内)

- ・すみだまつり
- ・文花団地まつり
- ・元禄市
- ・さんさんプラザまつり

- ・すみだ青空市ヤッチャヤ 取組支援

- ・すみだ青空市ヤッチャヤ 自走化

- ・すみだ食育フェスティバル(運営委員会)



- ・すみだ食育フェスティバル(展示) ⇒ 展示参加のみとなる

- ・子ども商店街支援

- ・食育フェス開催(運営委員会⇒区主導(展示))

- ・子ども商店街支援の強化



- ・すみだ食育goodネット 自立～活動支援

- ・すみだ食育goodネット 自走化

- ・すみだ農園支援 (墨田児童会館)

- ・すみだ農園開始 (墨田児童会館)

継続

- ・すみだ観光まちびらき出店 環境フェア出展
- ・エコライフ講座参加
- ・歯・口の健康フェスティバル 参加
- ・高齢者口腔ケア教室参加
- ・ステップ学級料理教室支援

継続

- ・立川フェスティバル出展 「ひまわり会」アプローチ

食育推進評価専門委員会(内閣府)活動報告 (区とすみだ食育goodネットが一緒に対応)

- ・「食19会」に参加

「こと」 ～ 墨田区 ～

「こと」～全国～

官

民



内閣府食育白書、
市町村実践事例調査報告書掲載
(区とすみだ食育goodネットが一緒に対応)

- ・第10回食育推進全国大会 in すみだ2015 実行委員会 準備会発足～運営
- ・第10回食育推進全国大会 in すみだ2015 実行委員会 設立～運営
- ・第10回食育推進全国大会 in すみだ2015開催

・内閣府 食育活動ボランティア表彰大臣賞受賞

食育推進全国大会出展
(長野県、福島県)

・すみだ食育推進リーダー育成講習会実施 (1期生～3期生育成)

・すみだ食育推進リーダー育成講習会講師、支援

(4期生育成)

食育を推進する「人材育成プログラムワークショップ」実施

・食育を推進する「人材育成プログラムワークショップ」参加

継続 (5期生育成)

・継続

官

民

官

民

・福島大学つくしまふくしま未来支援センター相双地域支援サテライトワークショップ「参画」
⇒なみえ創成小学校総合学習授業担当
⇒なみえ創成中学校のはる君プロジェクト修学旅行支援
⇒体験ツアー「知る!出会う!」体験するinふくしま2019」実施

(区:バス支援)



・特別区全国連携プロジェクト企画調整実施
「芽」から始める「すみとかプロジェクト」
⇒パートI実施
[視察、ワークショップ、リーフレット制作]
⇒パートII実施
[オンライン会議、映像制作]
⇒パートIII 実施
[ヤッチャバ売子体験、かかしづくり体験、アルバム制作]

食育推進全国大会出展
(岡山県、大分県、山梨県)

「ひと」



・墨田区の食育の取組に関する講師依頼

・食育を推進する「実践ツールワークショップ」実施
⇒グッドデザイン賞2015 受賞 すみだ食育ワークショップカード
「食で育む100のタネ」

・食育を推進する「実践ツールワークショップ」参画



・すみだ食育goodネット「0からの響創育」を発表
・10年プロジェクトの取組開始
・芯プロジェクト



・千葉大学環境デザイン研究室とのトークライブ実施
・デジタルを活用 (ハイブリッド型) 導入



・研究会担当 (新座市民総合大学健康増進学部食育推進学科、武蔵野市、町田市)
・東京商工会議所東商新聞取材を受ける

・「食育通信」第1号～第53号発行

・活動冊子「すみだ食育goodネット2010」初版～2011発行

・「食育通信」第54号～第82号発行 (終了)

・活動冊子「すみだ食育goodネット2012～2016発行」

・「食育通信」ダイジェスト版発行

・広報紙「食育の芽」第1号～第7号発行

・活動冊子「すみだ食育goodネット2017～2019発行」

・広報紙「食育の芽」第8号～第17号発行継続



第1号

第10号

第1号

第17号

「1から始める夢プロジェクト」

メンバー紹介

「人、笑顔、絆」を大切に
思いやりを持ち丁寧につなげて
きました

山崎史子



人とのつながり
違いをプラス思考に
切替え
視野を広げ
常に挑戦を

古井和美



皆で集い話し合い
多くの方々と広く会い
実行し発展して十年
更に善進して行く

片桐春



出会い
つながりに感謝！
思いやり
優しさを紡いで
人を大切に

鈴木初代



お互いを尊敬し
寛容な仲間たち
私にできるのは
心を尽くすこと

川嶋久美子



活動を知った8年前の
感動を秘めて
まさに
「継続は力なり」

芹田規久江



第1回すみだ食育推進
リーダー育成講習会に
参加して学んだことが
今に生きている

太田雅子



創り合う楽しさ
協力し合う喜び
そのプロセスは宝物
つながりを
大切に育む

白川幸子



仲間たちと築きあげた
「すみだの食育」が
全国大会の舞台上
輝いた

高橋しん



小さな事でも
人の役に立てたら
「いいな」との思いを
大切にする

岩立道子



「ありがとう」
やっと気づいたよ
10年のかかしの
ころ！

久我節子



「協働」という
言葉を知り
人生が深く
豊かになりました
I♡協働

青島節子



いろいろな
つながりを大切に
仲間と一緒に
楽しく活動すること

鈴木清子



あとがき

十文字学園女子大学名誉教授 長澤伸江



すみだ食育goodネットが設立10年を迎えたのを機に、“食で！育む vol.1”を発刊しました。昨夏、猛暑の中、墨田児童会館、すみだ青空市ヤッチャバ、食19会などに何度も足を運び、関係者にインタビューを行いました。それぞれが地道に、誠実に、多地域とのつながりを広げ、信念をもって活動を続ける環境の中で、子どもたちが育まれた姿が浮かび上がってきました。子どもたちにその想いを聞いたところ、体験した活動から将来の夢を見つけるほど影響力を持っていることがわかりました。「すみだの食育」が10年育んできた宝物がそこにはありました。人と人、地域と地域をつなぐ、つなぐことに手間をかける、食で人を育むことをブレずに続けてきた活動理念が実を結んだと確信しました。

この冊子づくりにあたり、墨田区と協働で進めてきたgoodネットのあゆみを振り返り、この道のりが平坦ではなかったことを改めて思い起しました。何年もかけて構築してきた墨田区との協働体制が難しくなり、goodネット解散の危機もありましたが、多くの会員のご協力を頂き「ピンチをチャンスに」の合言葉で乗り越えてきました。この冊子づくりには本当に多くの手間をかけ、活動を続けてきた皆様の本心からの声をインタビューさせていただきました。会員のメッセージは、食育推進の原動力となっております。「食で！育む」活動に取り組みたい地域や自治体の皆様にも読んで頂ければ幸いです。

すみだ食育 good ネット
10年プロジェクト
「食で！育む」vol.1

2022年発行

企画・編集・発行
協力

すみだ食育 good ネット
食育推進協働コーディネーター
秋田昌子
すみだ青空市ヤッチャバ

デザイン・イラスト
編集スタッフ

ヤマキミドリ
本多秀行、齊藤絢子、浜口彩音





食育は魔法！
夢を育み 未来を創る！

